

女性部 部長
ふくしま はつよ
福島 初代 さん
(御殿場地区)



地域を越えた 交流を

8地区の部員は、まだお互いのことをよく知りません。まずは地区間の交流会を行い、互いを知ることが大切です。そして、各地区が紹介された冊子を作りたいです。各地区のPRはもちろん、女性部活動を部員以外の人にも知ってもらうことで部員増加にもつながると思います。

近年、全国で自然災害が多く、県東部も地震や富士山の噴火など、災害がいつ起きても不思議ではない地域です。私は以前から災害が起きた時、女性の組織力はとても大事だと思っています。いざという時のためにも、部員同士のつながりを作っておく必要があります。

コロナ禍で難しい面もありますが「お互いを知る、そしてつながりを作る」これを目指すためにも、対面での会議や部員同士が会う機会を定期的に設けていきたいです。「つながり」によって、どんな相乗効果が生まれるのか楽しみです。



女性部本部役員の方々

敬称略

- 〈前列左から〉 副部長：杉山 由美子(なんすん)
部長：福島 初代(御殿場)
副部長：小川 富子(あいら伊豆)
〈後列左から〉 監査委員：青野 百合子(三島函南)
運営委員：八代 千鶴(伊豆太陽)
運営委員：伊奈 久仁子(伊豆の国)
運営委員：佐野 博子(富士宮)
監査委員：吉田 加代子(富士)



青壮年部 部長
うえまつ みのる
植松 稔 さん
(伊豆の国地区)



組織基盤の強化 農業所得の向上へ

設立初年度として、JAふじ伊豆青壮年部の基盤を築き上げる重要な年です。各地区では食農教育活動をはじめ、特徴ある活発な活動を展開しています。

各地区がこれまで独自に築き上げてきた活動や歴史、地域とのつながりを重視しながら、互いを知り、農業所得の向上につながる情報交換や組織基盤の強化、地域の活性化、魅力的な青壮年部事業の実施による部員数拡大など、全体でできる活動を検討し、取り組みたいと考えています。

まずは同じ青壮年部の盟友としての意識付けも大切だと思います。JAふじ伊豆青壮年部統一のユニホームも作成し、仲間意識や連帯感を醸成していきます。

8地区の部員が力を合わせ、全国トップクラスのJAに見合う活発な青壮年部活動が行えるよう、盟友と共に力を合わせて取り組んでいきます。



青壮年部本部役員の方々

敬称略

- 〈前列左から〉 監査委員：中村 純一(なんすん)
副部長：青木 光司(あいら伊豆)
部長：植松 稔(伊豆の国)
副部長・県連委員：加藤 裕章(三島函南)
監査委員：後藤 雅俊(富士宮)
〈後列左から〉
運営委員・県連副委員長：櫻井 学(三島函南)
運営委員：渡邊 資郎(富士)
運営委員：勝又 敬一郎(御殿場)
運営委員：金指 正和(伊豆太陽)



女性部

女性部設立総代会では、福島部長をはじめ、副部長に小川富子さん(あいら伊豆地区)と杉山由美子さん(なんすん地区)が就任。部員数は4千471人でスタートを切りました。
福島部長は「8地区の部員が地域を越えて親睦を深め、仲間の輪を広げるとともに、女性の組織力を高めていきたいと思います」と呼びかけました。

令和4年度は、JA静岡女性組織協議会の3力年計画「〜みんなとともに☆地域で輝け☆世代をこえて〜」の☆実践最終年度として、地域ごと特色ある今までの取り組みをさらに進めるとともに、地区本部を越えた仲間づくりを行い、JA役職員との意見交換や協同活動への参加を通してJA運営への参画を行います。
あわせて、『家の光』や『日本農業新聞』を活用した学習活動を進め、農政活動への参加も進めます。
女性部活動とも重なる、持続可能な開発目標(SDGs)の理解を深め、その考えを取り入れながら食農教育活動や食品ロス削減・環境保全活動なども展開していきます。



- 特集2 -
仲間づくり
始動!!

女性部 * 青壮年部

設立総代会開催

JAふじ伊豆女性部・青壮年部は6月3日、富士地区本部のホワイトパレスでそれぞれ設立総代会を開きました。
初代部長に女性部は福島初代さん(御殿場地区)、青壮年部は植松稔さん(伊豆の国地区)が就任されました。設立総代会では役員選任の他、規約や令和4年度活動計画なども決定し、出席した部員やJA役職員は、新しい出発に気持ちを新たにしました。

青壮年部

青壮年部設立総代会では、植松部長を支える、副部長に加藤裕章さん(三島函南地区)と青木光司さん(あいら伊豆地区)が就任しました。
植松部長は「8地区の盟友が一つになれば、全国トップクラスの規模のJAに見合う青壮年部となる。各地区独自の活動を大事にし、農業所得の向上につながる情報交換をしていきたい」と意気込みを話しました。
令和4年度はJA静岡青壮年連盟3力年計画「『繋匠(けいしょう)』」

One Team 未来へ」の実践最終年度として、JAとともに農業所得の向上に取り組みむことを中心に、農業を将来へ継承するための食農教育活動や環境変化・自然災害に臨機応変に対応する農業生産体制の構築を進めることを基本方針としました。
重点活動項目は、①青壮年部8地区相互の交流を図り互いを知る、②各地区での食農教育活動、③魅力的な青壮年部事業の実施による部員数の拡大、④青壮年部活動の情報発信とし、8地区464人の部員が活動を展開していきます。

